

事後評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	耕作放棄地等を活用した放牧による乳用種牛肉の機能性成分向上技術	
研究期間	平成26年度 ~ 平成30年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.6
[コメント]		
<p>乳用種去勢牛を耕作放棄地に放牧することで、生産される牛肉中にカルニチン等の機能性成分を増やし、付加価値を高めて販売するという研究課題。</p> <p>ジャージー種去勢牛を単に廃用とするのではなく、付加価値をつけた牛肉として販売できる方策を示したことは大きい。バイヤー向けの官能評価では「美味しい」と高い評価が得られており、近年の赤味嗜好にも対応できるのではないかと考えられる。</p> <p>実証農場にて放牧牛肉の販売や地元レストランへの提供を開始したとのこと。成果の普及も図られていることを評価する。</p> <p>一方で、乳用種であるジャージー種は、肉質(産肉性や肉が固い等)が肉用種よりも劣るため、放牧により機能性成分を高めたとしてもブランド化に結びつけるのは難しいという意見もあった。今後、同様の研究をおこなう場合には、給与飼料等や放牧期間について、更なる検討をお願いする。</p>		

事後評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	性選別精液の活用に向けたTAIおよびSOVプログラムの確立	
研究期間	平成28年度 ~ 平成30年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.2
[コメント]		
<p>本研究課題は、乳用牛の頭数減少をくい止め、酪農生産基盤を強化するための基盤技術として位置付けられる。</p> <p>これまで性判別精液は、人工授精の受胎率や採卵成績の低下に課題としてあった。これを解決すべく、TAIプログラムとSOVプログラムについての検討をおこなった。</p> <p>その結果、定時人工授精プログラムをおこなっても、性判別精液の受胎率は通常精液のそれと変わらないこと、主席卵胞除去を吸引ではなくE2製剤投与によっても、採卵成績は変わらないことを明らかにした。</p> <p>上記の結果から、性判別精液の受胎率向上による後継牛の効率的な生産が可能になった。さらに主席卵胞除去の簡便化により、性選抜採卵が容易になることから、安定的な後継牛の確保と、子牛の販売による酪農経営の改善に資する。</p> <p>本課題で得られた成果は、今年度から開始する「甲州牛増産のための集約的採卵プログラムの確立」にも活かされており、今後、更なる技術の進展を期待する。</p>		